

2014 年度(平成 26 年度)

# 事業計画

2014年(平成26年)3月28日

学校法人 上智学院

## はじめに

学校法人上智学院は、昨年（2013年）の上智大学創立100周年、上智大学短期大学部創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年という記念の年に、さまざまな創立記念事業を実施しました。この事業などを通して、本学院の果たすべき使命は、フランシスコ・ザビエルから受け継がれているキリスト教精神を源泉とした教育の精神“Men and Women for Others, with Others”（他者のために他者とともに生きる）を備えつつ、今ある様々な地球的問題に対して果敢にチャレンジする人材の育成であることを改めて深く確信しました。

今年は、こうした本学院の使命を果たす取り組みを充実させるとともに、新たな100年の発展を支える基盤の強化に歩みだす一年目です。その具体的な施策を打ち出す基軸となるものが、昨年7月に公表した今後の10年を見据えた将来構想「上智学院グランド・レイアウト2.0」です。この「グランド・レイアウト2.0」は、本学院の独自性や優位性を高め、国際的評価を得るカトリックの高等教育機関としてさらなる発展を遂げるために7つの重点目標を掲げており、この重点目標に基づき事業を展開していきます。

1. 建学の理念と教育精神の現代的具現化
2. 教育・研究の高度化、グローバル化とネットワーク化
3. 持続的発展と教育研究の基盤の整備・充実
4. ブランディングの構築
5. 「選択と集中（スクラップ・アンド・ビルド）」の徹底
6. 事業計画推進のための組織体制の構築
7. すべての構成員の参画

以下、Ⅰ～Ⅱに今年度の重要課題及び予算方針を揭示します。

今後も継続的に事業計画を検証し、人事面、組織面、財政面を含めて選択と集中を進め、持続可能な発展に向けて事業に取り組みます。

（参考：グランド・レイアウト2.0）

[http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/approach/long-range\\_plan](http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/approach/long-range_plan)

## Ⅰ. 重要課題と事業計画

### A. 上智学院の運営基盤に関する計画

#### 1. 全体計画

（1）上智学院全体の意思決定を見直し、企画立案の強化と迅速化を図る。

- ① 意思決定に係るプロセスや職務権限の見直しと、ガバナンス体制の整備
- ② ペーパーレス化を念頭においた会議体システムの再構築
- ③ 各種施策におけるPDCAサイクルの導入と継続的な実施
- ④ 大学公式ホームページによる情報発信力の強化

（2）IR（Institutional Research）機能を整備する。

- ① IR機能の整備に向け、データの収集・精査の方法、効果的なツールの導入等の検討
- ② IRを推進する組織体制の確立

#### 2. 組織・人事計画

（1）教員のパフォーマンス向上のための施策を検討、実施する。

- ① 教員評価制度導入に向けての検討（目的の明確化、評価実施・反映方法等）

- ② 限られた資源の中での、全学的な最適視点に立った教員組織の再編成についての検討
- (2) 職員のパフォーマンス向上のための施策を検討、実施する。
  - ① 職員人事制度及び給与体系の改正、運用（2014年7月1日施行）
  - ② 多様化・複雑化した業務に対応するための事務組織再編成
- (3) 男女共同参画の推進をより強化する。
  - ① 意識啓発、キャリア形成、ワーク・ライフ・バランス、次世代育成等の施策の具体的な展開
- (4) 人件費依存率を改善する。
  - ① 教職員の適正人員数の検討

### 3. 財政計画

- (1) 財政基盤強化のための諸方策を実施する。
  - ① 資産運用収入の安定的な確保
  - ② 管理会計手法の導入による事業評価制度の確立
  - ③ 中・長期財政計画に基づく予算制度の確立
- (2) 収入源の安定的確保と効果的支出を実現する。
  - ① 学生数の安定的確保による納付金収入の増額
  - ② 寄付金収入の恒常的確保に向けた新たな展開（2014年度「SOPHIA 未来募金」の開始）
  - ③ 事業収入の増額と外部資金の受入の強化
  - ④ 費用対効果の観点を踏まえた事業の見直しによる経費の削減
  - ⑤ 2015年4月1日に改正適用される学校法人会計制度への対応

### 4. 施設・設備計画

- (1) 各キャンパスの有効活用と施設設備の整備計画を策定する。
  - ① 四谷キャンパスの再開発（新棟建設工事、2号館改修計画、3・4・8・9号館改修計画の遂行）
  - ② 省エネ・エコ活動、安全・安心なキャンパス造りの推進
  - ③ 真田堀運動場の施設改修計画の推進
  - ④ 四谷、秦野、目白聖母、大阪サテライトの各キャンパスを相互に結ぶテレビ会議システムの導入

### 5. ICT計画

- (1) ICTの活用により、教育・研究及び学生支援への新たな価値を創出する。
  - ① 適正なICT全体像を見据えたICT環境のスクラップ・アンド・ビルドの実施
  - ② 新コンピュータールームの構築(理工学部CAD室の改修と学術情報局情報システム室への移管)
  - ③ 教職員及び学院が設置する学校に在籍する学生を対象とした新たな電子メールシステムの構築  
(2015年度から実運用化)

### 6. その他の事業計画

- ① 上智の建学の精神について理解を深める活動の継続
  - (a) 上智の座シリーズ（講演会、シンポジウム、コンサート）などの開催
  - (b) カトリック・アイデンティティーにそったツアー企画の実施

## B. 上智大学

### 1. 教学計画

- (1) 学士課程（学部）の教育の質を保証する。
  - ① 全学共通教育の抜本的な改革
  - ② 教育の質保証の実質化（学修時間の確保と適正な科目・科目数の配置、科目ナンバリング制度

の全学的導入、成績評価の厳格化、教育・学修ポートフォリオの導入等)

- ③ 学科の再編及び教員配置の精査と再配置
- ④ 学部学科等を超えた履修プログラムや学外機関等との連携等による教育の高度化と効率化
- ⑤ 総合グローバル学部の円滑な運営
- ⑥ 助産学専攻科の2015年度設置に向けた準備

(2) 大学院教育の高度化と教育組織の再編成を実施する。

- ① 大学院研究科専攻の再編成、カリキュラムの改革及び既存の研究科・専攻の枠組みを超えた履修コースの設置
- ② 社会人大学院生への積極的なサポート

(3) グローバル化を推進する。

- ① 海外の多様な学事日程に柔軟に対応しうる学期制度の検討
- ② 協定校・短期プログラムへの派遣増や休学留学中の取得単位認定等による海外派遣学生数の拡充
- ③ 交換留学生、国費留学生、政府派遣留学生の受入留学生数の拡充
- ④ 外国人留学生受入れ促進のための効果的入試実施方法の導入

(4) 国内外の教育機関・支援者（組織）との連携を強化する。

- ① 海外拠点（ルクセンブルク、イエズス会東アジア5大学拠点、カンボジア等）の活用
- ② ASEANの大学ネットワークとの連携プログラム並びに北米、アジア、アフリカ等のイエズス会及びキリスト教系大学との協力関係の構築と強化
- ③ 国内外の大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリープログラムの開発
- ④ 海外協定校との学術交流促進のための短期教員交換制度等の見直し

(5) 高い資質を有した学生を安定的に確保する。

- ① 2015年度入試（2015年2月）におけるTEAP（アカデミック英語能力判定試験）利用型一般入試の実施
- ② 入学種別に応じた入学前教育の検討

## 2. 研究基盤の強化

(1) 研究活動と研究成果の発信を強化する。

- ① 「学術研究特別資金」の新設による、本学の重点領域研究への研究費の優先的配分の実施
- ② 「個人研究成果発信奨励費」の新設による、研究成果発信の支援強化
- ③ 若手研究者育成支援の充実
- ④ 研究所・センターの運営方法の再検討
- ⑤ グローバル化推進のための新たな研究所の設置準備
- ⑥ 教員教育研究情報データベースにおける研究業績情報の点検・整備及び情報発信の強化

(2) 外部研究資金の獲得強化と産官学連携を推進する。

- ① 産官学連携に係る学内体制の整備と各種連携事業の推進
- ② 外部研究資金獲得強化のための情報収集・個別相談等の支援機能の向上
- ③ 公的研究費の適正な執行管理の徹底と研究倫理教育の実施

## 3. 学生の学修支援・学生生活支援計画

(1) 学修支援を推進する。

- ① 障がいのある学生への安全安心な学修環境提供のための学内協働支援体制の整備
- ② 学修スペースやアメニティスペースの充実、夜間対応サービスなど学修環境の改善
- ③ 石神井分館所蔵資料の中央図書館への移転（2013年度～2015年度作業の2年目）による学修環

## 境の整備統合

(2) 学生生活を支援する。

- ① 奨学金制度の整備、拡充と奨学基金の拡充による修学環境の向上
- ② 学生相談室の設置、クラス担任と連携した学生相談体制の確立等による総合的健康管理指導体制の充実
- ③ 学生寮の運営体制の整備と改善、並びに祖師谷国際交流会館の機能強化のための改修工事と環境整備
- ④ 課外活動の活性化、震災復興等ボランティア・プログラムの充実と支援、学生の主体的社会貢献活動への支援
- ⑤ 就職支援プログラムの充実と体系化、正課授業との連動

4. その他の事業計画

- ① グローバル 30 補助期間終了後の事業継続にかかる予算措置及び新たな教育体制の展開

## C. 聖母大学

※ 聖母大学は、2014年3月31日をもって大学廃止の申請を行う予定である。

- ① 聖母大学（聖母女子短期大学を含む）の卒業（修了）生の情報の保全と証明書発行への対応
- ② 目白聖母キャンパス1号館1階のチャペル前の展示コーナーの活用、充実策の検討

## D. 上智大学短期大学部

(1) 短期大学基準協会評価観点を活用したPDCAサイクルを確立する。

- ① アセスメント・ポリシーに基づく短期大学基準協会の評価観点を活用したPDCAサイクルの確立と継続的な実施
- ② 学修時間の確保や密度の高い授業の推進等による教育の質保証及び向上

(2) 英語能力を強化する教育を一層推進する。

- ① TOEICに特化したe-learningソフトの導入による実践的英語力の強化

## E. 上智社会福祉専門学校

(1) 社会福祉専門学校の将来構想を検討する。

- ① 上智大学・大学院との連携の強化
- ② 幼稚園教諭免許取得のための幼稚園教諭養成課程を持つ大学との連携体制の強化

(2) 入学者の安定的確保のための取り組みを強化する。

- ① 現役高校生に向けた説明会の強化
- ② 東京都離職者再就職訓練受託事業等、補助事業の実施

(3) 国家資格取得のための指定養成機関としての充実を図る。

- ① 新たな介護福祉士養成課程（通信）の検討
- ② 無資格現任者及び有資格者を対象としたキャリアアップ支援の推進

## F. 聖母看護学校

- ① 公募制推薦入学試験の導入及び学生募集広報の強化による入学定員の充足
- ② 将来計画の策定

## G. 生涯学習

- ① 学修ニーズや産業界のニーズ及びライフスタイルの変化や多様な学習スタイルに対応した生涯学習機関の設置を検討
- ② 本学の教育・研究組織の連携と専任教員の活用による建学の精神と教育理念に基づいた生涯学習プログラムの構築
- ③ 高等教育機関としての情報発信、知的財産の還元による社会貢献、地の利を生かした地域連携などの視点による生涯学習のさらなる可能性の検討
- ④ グリーフケア人材養成講座の拡充（東京での開設と大阪での継続開講）
- ⑤ 福岡地域における教員免許状更新講習の実施の検討

## II. 2014年度（平成26年度）予算方針と計画の概要

### 1. 消費収支全体

- ① 「グランド・レイアウト 2.0」に示す重要課題に係る教育・研究活動及び基盤整備等の諸施策に対する予算の重点化
- ② 既存事業とその予算の厳正な見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれない、適正かつ公正な必要最低限の予算を編成及び執行することによる限られた財源の最適配分（予算化）
- ③ 学校法人及び各学校の消費収支均衡を目標とする施策の推進による、財政基盤の強化と健全な財政を基本とする安定的発展の確保
- ④ 安定的な財政基盤を構築し、「グランド・レイアウト 2.0」に示す重要課題を円滑に推進するための事業目的別予算枠の設定及び中・長期財政計画への反映と、事業別、学部等セグメント別収支状況の適正な把握による恒常的な評価・見直しの実施

### 2. 人件費

- ① 人的資源の活用を図ることによる、教育・研究のさらなる充実と業務の合理化・効率化の推進による人件費総額の可能な限りの抑制
- ② 教員人件費：教員配置の適正化による、可能な範囲での人件費の抑制
- ③ 職員人件費：専任職員採用の可能な範囲での抑制と、職員人事制度の改正施行による、職員人件費の適正化

### 3. 研究推進・活性化予算

- ① 「グランド・レイアウト 2.0」の重点施策である研究力の強化の方策として、「学術研究特別資金」を新たな研究費として設け、特色ある研究や総合大学の特色を生かした学際的、組織的な研究活動に対し、重点的に研究資金を配分。研究推進力や国際的な発信力を向上させ、研究大学としての本学のプレゼンスを高める（上智大学 総額 50 百万円）
- ② 「個人研究成果発信奨励費」を新たな研究費として設け、教員個人の研究等の成果を国内外に発信することにより、研究者個人はもとより、本学の研究活動のプレゼンスを高める（上智大学 総額 10 百万円）
- ③ 上智大学各個研究費は 95%を従来型の研究費とし（総額 203.5 百万円）、5%を個人研究の活性化を目的として予算化（上記②）  
上智大学短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母看護学校の各個研究費は、前年度予算と同額（総額 9.5 百万円）
- ④ 理工学部申請型研究費（総額 205 百万円）は、従来型の研究費の一部を応募型研究費（総額

の内 18 百万円) とし、重点研究を推進

- ⑤ 常設研究部門予算総額の 5%を新たな研究部門創設や研究活動活性化を目的として予算化(総額 3 百万円)

#### 4. 教育イノベーション・プログラム予算

教育の活性化や発展に寄与する取り組みに対する予算措置 (総額 36 百万円)

#### 5. 教職協働・職員協働イノベーション研究予算

教職員が協働して学院改革に向けた調査研究を行う取り組みに対する予算措置 (総額 1.5 百万円)

#### 6. 寄付金及び奨学・奨励制度

- ① 周年募金終了に伴う寄付金募集活動の新たな展開と、各学部・学科独自の同窓会組織の設立等寄付募集基盤の強化及び教職員全員による積極的な寄付金募集活動の展開
- ② 優秀な学生の確保と若手研究者の育成を積極的に支援することを目的とした大学院学費の大幅な減額と、奨学金制度等支援策拡充の推進 (これに対応した学部・大学院を中心とした全学的なスクラップ・アンド・ビルドの推進)
- ③ 新たな寄付金募集活動の展開による既存基金の拡充と奨学・奨励制度の充実
- ④ 東日本大震災学生に対し、入学検定料免除、授業料等学費支援、生活支援等様々な側面からの支援を 2014 年度も継続して実施 (支援総額 30.8 百万円)
- ⑤ 上智大学祖師谷国際交流会館へ入居する外国人留学生や日本人地方出身学生の国際交流促進を生活面でも支援

#### 7. 省エネルギー、環境問題への配慮

- ① 電力不足、温室効果ガスの排出量の削減や燃料費高騰に対応した省エネの実施
- ② 高効率機器の積極的採用と自然環境に配慮したエネルギーの使用の推進

#### 8. 経常的経費予算

- ① 予算上限額の原則は前々年度 (2012 年度) 実績総額の 1%加算額 (予算申請基準を予算ベースから実績ベースに改正。2014 年度予算額は、消費税率の引き上げを考慮し、2012 年度の実績総額に 1% (消費税増税予想率 3%—毎年度削減率 2%) を加算した額を上限)
- ② 上記①にかかわらず、以下の A~D の取り組みに係る経費 (勘定科目) は、2013 年度予算示達額を上限 (消費税率引き上げに対する特別措置はなし)
  - A: 学生支援及び若手研究者育成支援に係る経費
  - B: 学生募集及びブランド力強化に係る経費
  - C: グローバル化推進に係る経費
  - D: 人材 (教職員) 育成に係る経費
- ③ 会議費・渉外接待費・その他の福利費については、必要最低限を予算化
- ④ 合見積りの徹底等による実支出額の最大限の抑制
- ⑤ 予算の計画的執行の推進

#### 9. 適正な研究費執行に向けた取り組み

- ① 教職員の予算適正執行への意識醸成・喚起のための様々な情宣活動の継続
- ② 購入物品等検品・検収の継続的な実施

## 2014年度資金収支予算（学院）

（単位：千円）

科 目	2014年度予算	前年度予算	増 減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	15,901,163	15,483,878	417,285
手数料収入	1,132,998	1,183,488	△ 50,490
寄付金収入	197,000	651,546	△ 454,546
補助金収入	2,560,170	2,287,362	272,808
資産運用収入	1,128,954	2,067,833	△ 938,879
資産売却収入	3,874,060	3,591,859	282,201
事業収入	641,768	646,368	△ 4,600
雑収入	643,158	690,316	△ 47,158
借入金等収入	2,396,000	0	2,396,000
前受金収入	5,090,828	5,192,567	△ 101,739
その他の収入	14,034,860	14,344,997	△ 310,137
資金収入調整勘定	△ 6,706,346	△ 7,130,523	424,177
<b>収入の部合計</b>	<b>40,894,613</b>	<b>39,009,691</b>	<b>1,884,922</b>
<b>支出の部</b>			
科 目	2014年度予算	前年度予算	増 減
人件費支出	12,050,358	11,793,870	256,488
教育研究経費支出	6,037,051	5,762,961	274,090
管理経費支出	1,372,808	1,833,710	△ 460,902
借入金等利息支出	145,402	159,872	△ 14,470
借入金等返済支出	700,070	665,600	34,470
施設関係支出	3,351,392	771,536	2,579,856
設備関係支出	724,270	790,091	△ 65,821
資産運用支出	12,500,000	15,825,434	△ 3,325,434
その他の支出	3,804,363	1,255,521	2,548,842
予備費	361,000	304,329	56,671
資金支出調整勘定	△ 390,338	△ 987,678	597,340
<b>支出の部合計</b>	<b>40,656,376</b>	<b>38,175,246</b>	<b>2,481,130</b>
資金収支過不足額	238,237	834,445	△ 596,208



## 2014年度消費収支予算（学院）

（単位：千円）

科 目	2014年度予算	前年度予算	増 減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	15,901,163	15,483,878	417,285
手数料	1,132,998	1,183,488	△ 50,490
寄付金	331,651	788,076	△ 456,425
補助金	2,560,170	2,287,362	272,808
資産運用収入	1,128,954	2,067,833	△ 938,879
資産売却差額	0	177,857	△ 177,857
事業収入	641,768	646,368	△ 4,600
雑収入	643,158	690,316	△ 47,158
<b>帰属収入合計</b>	<b>22,339,862</b>	<b>23,325,178</b>	<b>△ 985,316</b>
基本金組入額合計	△ 666,095	△ 1,101,301	435,206
<b>消費収入の部合計</b>	<b>21,673,767</b>	<b>22,223,877</b>	<b>△ 550,110</b>
<b>消費支出の部</b>			
科 目	2014年度予算	前年度予算	増 減
人件費	11,979,403	11,745,095	234,308
教育研究経費	7,633,170	7,315,719	317,451
管理経費	1,616,925	2,096,275	△ 479,350
借入金等利息	145,402	159,872	△ 14,470
資産処分差額	631,284	599,778	31,506
予備費	331,000	274,329	56,671
<b>消費支出の部合計</b>	<b>22,337,184</b>	<b>22,191,068</b>	<b>146,116</b>
当年度消費収入超過額	0	32,809	32,809
当年度消費支出超過額	663,417	0	663,417

※2014年度資金収支予算（学院）及び2014年度消費収支予算（学院）を2014年（平成26年）6月4日に追記

## 結 び

学校法人上智学院（上智大学、上智大学短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母看護学校）は、現代社会が抱える課題（高齢化、グローバル化、社会構造の変化等）に加え、いわゆる「2018年問題」（18歳人口の再減少）を始めとする将来の教育・研究を取り巻く厳しい環境に直面しています。

こうした時代を迎えるにあたり、新たな100年へと歩み出す本学院は、これまでの伝統と歴史を貫く「叡智（ソフィア）が世界をつなぐ」（Sophia—Bringing the World Together）の理念のもと、世界の持続的発展に建設的な貢献ができる人材“Men and Women for Others, with Others”（他者のために、他者ととともに生きる）を養成し、国際的評価を得るカトリックの高等教育機関として、さらなる充実発展を図るため日々の努力を重ね、「世界に並び立つ大学」に進化することを目指します。